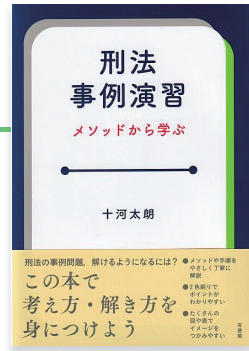


刑法事例演習

—メソッドから学ぶ

十河太朗

2021年4月発売 / 270頁 / 定価 2530円(税込)
A5判 / 並製



編集担当から 講義や基本書で、刑法についてひととおりのことは学んできた。さあ、事例演習に挑戦しよう。でも……「以下の事例について、Xの罪責を論じなさい」。いざ問題文を読んでみたけれど、何をどうしたらいいのだろう……。考える手順も、何罪について論じればいいのかも、よくわからない。あの論点は検討する必要があるのかな……。何か見落としているかもしれない……。

そんな経験は、ありませんか。刑法の事例問題を解くためには、一定のルールや手法を理解しておく必要があります。でも、そこまではなかなか教わる機会もなく、しっかり学んだはずなのに、事例問題はうまく解けない。こうした悩みにこたえる一冊として、この本は生まれました。

まず、Chapter Iで、刑法の事例問題を解くときのルールや手法を紹介しています。問題を解きながら、考え方・解き方を学んでいきましょう。「Method」と「Step」に注目です。そして、Chapter IIは、実践編。Chapter Iで学んだことを活かしながら、事例問題に挑戦しましょう。

きっと、解けるようになるはず。この本が、皆さんの心強い味方になることを願っています。(三宅)

Point!

P

紙面は2色刷り。読みやすい文章に、図もふんだんに織り交せて工夫を凝らしています。

Method
17

Method
1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19

行為者の意思の発生時期に注意しよう

問題 17

以下の[1]のX、[2]のY、Zの罪責を論じなさい。

[1] Xは、Aと口論となり、かっとなって腕をAの首に回して絞め、そのままAを地面に引き倒した。これによりAは足に損傷を負った。Xは、Aの首を絞め続けながら、Aの上着のポケットに財布が入っているのを見て、これを奪おうと決意し、Aの首を絞め続けた。Aが抵抗しなくなったため、Xは、Aの財布を奪い、逃去した。

[2] Xは、高齢者に電話をかけて、現金を送付させる計画を立て、Yを仲間に誘った。ただ、Xが検挙されるリスクを減らすため、被害者から送られた荷物をYが受け取った後、バイク便の業者Zにすべて事情を話し荷物の運搬を依頼し、Zは、これを了承した。Xは、食品会社の社員を装ってBに電話をかけ、「未払いの代金20万円があるので、現金を送ってください」と言いました。これを信じたBは、指定された住所に現金20万円入りの荷物を送った。翌日、Yは、Bから送られてきた荷物をその住居で受け取り、Zがこれを回収して運搬し、Xに届けた。

I 故意の発生時期に注目しよう

Method 16で述べたように、刑法の事例問題を解くときには、いろいろな要素の先後関係に注意する必要があります。特に重要なのが、**故意がいつ発生したか**です。Method 2で述べたように、仮説を立てるときには行為者の

意思が大きなヒントになるため、故意がいつ発生したかを正確に見極めることが重要になります。

たとえば、XがAを射殺した後、Aの財布を持ち去ったとします。この場合、もしXに発砲の前から財布を奪う意思があれば、強盗殺人罪(240条)が成立します(【例1】)。財物奪取意思をもって発砲したため、発砲自体が強盗行為に当たるといえ、その強盗行為によって人を死亡させたので、強盗殺人罪に当たるわけです(Method 18で扱う「連発系の犯罪」です)。

これに対して、射殺後にはじめて財布を奪う意思が発生したのであれば、発砲は、財物奪取のために行われたわけではありませんから、強盗殺人罪ではなく、普通の殺人罪(199条)です。問題は、財布を奪った行為がどのような財産犯に当たるかですが、被害者の死亡後に財物奪取の意思が発生しているの、いわゆる死者の占有という論点を検討する必要があります。窃盗罪(235条)または占有離脱物横領罪(234条)が成立することになります(【例2】)。

このように、客観的事実は全く同じでも、故意がいつ発生したかによって、検討すべき論点や結論が大きく変わる可能性があります。これは、原因において自由な行為、反抗抑圧後の奪取意思など、いろいろな場面が出てきます。

II 実行行為の始まりに気を付けよう

Method 17-1 故意がなければ、故意犯の実行行為は始まらない

Method 16で述べたように、実行行為がいつ始まり、いつ終わったかを意識することが重要です。そして、上で述べた故意の発生時期は、実行行為がいつ始まるのかという点に関係します。つまり、「故意があってはじめて、故意犯の実行行為が始まる」のです。そこで、故意の発生時期も重要ということになります。

【例1】	【例2】
X発砲⇒A死亡、X奪取	X発砲⇒A死亡、X奪取
強盗殺人罪	殺人罪
	窃盗罪 または 占有離脱物横領罪

100 Chapter I

6 時間 101

※目次は、小社ウェブサイトの本書のページをご覧ください。

